

論文:

形式名詞「こと」の表記

Notation of the Formative Noun "koto"

池田史子、梶村知美

IKEDA Fumiko, SUGIMURA Tomomi

要旨:

日本語を書き表す際、漢字・ひらがな・カタカナの3種の文字のうちからどれを選択すべきかが、議論されることがある。特に、実質的な意味が希薄な形式名詞については、平仮名で書くことが推奨されている。しかし、近年、形式名詞を漢字で表記する例が目立つようになった。本稿の目的は、形式名詞「こと」を例にして、形式名詞の表記に推奨される仮名表記ではなく漢字表記が選択される事例が存在する状況を、『現代日本語書き言葉均衡コーパス (BCCWJ)』を用いて明らかにすることである。さらに、形式名詞を漢字表記する割合は、分野によって異なることを検討した。

Abstract:

When writing Japanese characters, there is often a debate over the choice of characters among the three types: *kanji*, *hiragana*, and *katakana*. Particularly, for formal nouns with a vague substantive meaning, writing them in *hiragana* is recommended. However, in recent years, there has been a noticeable increase in instances where formal nouns are expressed in *kanji*. The purpose of this paper is to use the Balanced Corpus of Contemporary Written Japanese (BCCWJ) to examine scenarios in which *kanji* characters are chosen for the representation of "koto"(thing), contrary to the recommended *hiragana* usage in the case of formal nouns. The study also delves into the biased character choices observed in various fields when "formal nouns" are written in *kanji*.

1.はじめに

日本語を書き表す際、漢字・ひらがな・カタカナの3種の文字のうちからどれを選択すべきかが、議論されることがある。日常生活でも、漢字が存在する語の表記に、意図的にひらがなを選択する事例が見られる。^{注1)}最新の国語表記のよりどころである「公用文作成の考え方」(2022年1月7日文化審議会国語分科会建議、同1月11日内閣官房長官通知)では、「(3) 常用漢字表に使える漢字があっても仮名で書く場合」のひとつとして、形式名詞が挙げられている。形式名詞としては、「こと、とき、ところ、もの」などを示す。ただし、「事は重大である」「法律の定める年齢に達した時」「家を建てる所」「所持する物」「裁判所の指名した者」のように、「具体的に特定できる対象がある場合には漢字で書く」とする。

このような国語施策があるにもかかわらず、現状ではそれが定着しているとは言えない。そのため、さまざまな媒体で形式名詞の漢字表記が目立つ。その状況は、(1)のように、新聞の読者投稿欄でも指摘を受けている。この投稿者^{注2)}が「重い感じ」と表現したのは、「具体的に特定できる対象」がないのに漢字表記が選択されていることを指す。

- (1) いつのころからか、テレビの画面に字幕が出るようになった。それを見ながら、テレビ番組中の言葉遣いについて時々考える。一つ目は、形式名詞は平仮名で書くのが本来の姿と思うが、字幕には「事」「為(ため)」などと漢字で表記され、重い感じがする(毎日新聞 2009.9.15 東京朝刊 家庭面 p.15)。

(2) の青少年読書感想文コンクール(中学校)の講評においても、仮名で書くべき形式名詞を漢字表記したことについて、「表記上の問題」と指摘している。

(2) 本年度の読書感想文を審査する過程で、気づいたことをいくつか書かせていただく。まず、表記上の問題が今年も散見された。形式名詞「こと」を「事」と表記する例が最も多く、カギ括弧が行末にきた場合の位置の誤り、話し言葉と書き言葉の混同といった例もいくつか見られた。誤字脱字も気になるところである（毎日新聞 2008.12.3 地方版/三重 p.20）。

(3) のように、別の県の同じく中学校の部における審査評においても、同様の事例がある。形式名詞の漢字表記と明言されているわけではないが、注意すべき「形式名詞の書き方」とは、文脈から判断して、文字選択のことと思われる。

(3)（前略）難点を言えば、句読点の付け方、改行の仕方、形式名詞の書き方などを注意して推敲してほしいと思います（後略）（毎日新聞 2006.12.8 地方版/島根 p.21）。

また、(4) のように、事件の犯人像を推察する際に、識者の見方として、戦後に形式名詞の仮名表記が教育されたこと、それが身についているか否かを指標のひとつとしている事例があった。

(4) 「どうして。」など、閉じカッコの前にマルを忘れない点や、形式名詞の「こと」を平かなでほぼ統一している点は、「一読、ただ者ではない（斉賀さん）と思わせるほど、現代表記が身についている。この表記法からは、戦前の教育の名残は全く見つからないという（読売新聞 東京朝刊 社会面 p.31）。

本稿では、形式名詞の表記において、国語表記のよりどころ・目安として推奨されている仮名表記ではなく、漢字表記を選択している事例がある状況を、「こと（事）」を例に明らかにし、分野における偏りについて検討する。その対象として、国立国語研究所が構築した『現代日本語書き言葉均衡コーパス』（BCCWJ: Balanced Corpus of Contemporary Written Japanese）を用いる。

2. 形式名詞とは何か

国語辞典では、「こと」の2項目に、形式名詞としての用法が掲載されることが多い。前田（2010）は、47の異なり語うち、7種の辞書・辞典類のすべてが形式名詞と認めるのは「こと」のみであると報告している。例えば、(5) (6) のような例を挙げることができる。

(5) こと【事】☐他の語句をうけて、その語句の表す行為や事態を体言化する形式名詞（小学館『デジタル大辞泉』）。

(6) こと【事・緯】〔二〕他の語句を受けて、これを名詞化し、その語句の表わす行為や事態や具体的内容などを体言化する形式名詞（小学館『日本国語大事典 第二版』）。

日本語学の事典・辞典の類では、形式名詞を次のように説明している。

(7) 名詞のうちの特種な一類で、意味が抽象的・形式的になっていて、独立して行われず、具体的・実質的な意味を補う修飾語を伴って使われるもの（西尾 2007）。

(8) 「はず」「むね（旨）」のような、実質の意味が希薄で、常に連体修飾成分を受ける形で用いられる名詞。（中略）すなわち、形式名詞の規定として重要なのは、概念規定として「実質の意味の欠如ないし希薄化」、振る舞いとして「実質の意味を補充する（連体修飾の）成分が必要であること」の2点である（橋本 2018）。

そして、どちらも、(9) (10) のように、実質名詞（自立的名詞の用法）との区別において、形式名詞であるかどうかの認定が厳密には難しいことを指摘している。

(9) 修飾語を要求するかどうかははっきり決め難い場合もあり、形式名詞に所属する語の範囲は確定し難く、実質名詞との区別は程度の差にすぎない点もある（西尾 2007）。

- (10) 名詞のうち、どの語が具体的に形式名詞であるかを認定する場合に問題になるケースの1つは、ある名詞が、形式名詞用法とそうではない用法の両方を持つ場合である。例えば「こと」は多く形式名詞とされるが、その振る舞いにおいて「ことは重大である」というような自立的名詞の用法も持っているため、「こと」が形式名詞であると厳密に主張するためには、自立的名詞の用法における「こと」は、形式名詞の「こと」とは別物であると主張しなければならないが、これをきちんと行うこと、特にすべての形式名詞候補についてこれを厳密に行うことは、現在でも十分にはできていない(橋本 2018)。

「形式名詞」という語を初めて用いたのは、松下(1928)である。玉懸(2015)は、「松下は、すべての詞を分類する観点として、その詞の意義が実質的か形式的かを見たのである。すべての詞に「形式〇〇」が立てられる以上、当然、詞の一つである名詞には「形式名詞」が立てられることになる」ので、「詞を下位分類するに際して、実質対形式という観点を徹底して導入した」としている。また、山田(1908)は、形式名詞という語は用いなかったものの、松下(1928)よりも20年程度早く、形式名詞について「名詞中特別の注意を要するもの」ととらえ、「必ず之を制限せしむるが爲に他の語を上に加へざるべからず」とした。この考え方が、事典・辞典類に、「具体的・実質的な意味を補う修飾語」「常に連体修飾成分を受ける形」として反映されている。

これらに対して、玉懸(2015)は、「何らかの非自立的な用法を有する名詞が「ところ」や「こと」の他にもごろごろと転がっている」ことも合わせて考慮して、形式名詞の本質を、「実質の意味が乏しく常に修飾語成分を伴う名詞ではなくある非自立的機能を果たし得る名詞」と捉え直した。

3. 形式名詞のかな書き推奨について

名詞中特別の注意が必要な形式名詞であっても、山田孝雄や松下大三郎らが、実質的な名詞との区別を、表記の上で行ったわけではなかった。

戦後の国語施策では、漢字とかなのどちらを主とするか、漢字とかなの使い分けを検討する流れのなかで、漢字があってもかなで書くことを推奨する語という考えが生まれた。

終戦直後の1945年11月、文部大臣は標準漢字表の再検討を国語審議会に諮問した。その間、送り仮名、くりかえし符号、くぎり符号、かなづかい、憲法改正時の漢字使用検討、ローマ字運動なども並行して行われ、1946年11月に、「法令・公用文書・新聞・雑誌および一般社会で、使用する漢字の範囲」を示す「当用漢字表」(1,850字)が答申された。そこには、使用上の注意事項として、漢字があってもかな書きにする場合が示されている(11)。ただし、形式名詞については、言及されていない。以下、国語施策については、文化庁(2005)による。

- (11) イ この表の漢字で書きあらわせないことばは、別のことばにかえるか、または、かな書きにする
 ロ 代名詞・副詞・接続詞・感動詞・助動詞・助詞は、なるべくかな書きにする。
 ハ 外国(中華民国を除く)の地名・人名は、かな書きにする。
 ただし、「米国」「英米」等の用例は、従来の慣習に従ってもさしつかえない。
 ニ 外来語は、かな書きにする。
 ホ 動植物の名称は、かな書きにする。
 ヘ あて字は、かな書きにする。

1950年国語審議会に、「国語問題白書(仮称)」「話しことば」「敬語」「公用文・法律用語」「漢字」の各部局を設置され、文部省からは、『国語の書き表し方』や『国語シリーズ』が刊行されていった。1951年10月には、「公用文改善の趣旨徹底について」(1951年10月30日国語審議会建議、翌年4月4日内閣官房長官依命通知)の別冊2「公用文作成の要領」が可決され、文部大臣に建議している。ここにも、形式名詞の仮名表記についての言及はない。

1954年3月になって、国語審議会は、「法令用語改正例」を可決し、「法令用語改善について」として内閣総理大臣に建議し、文部大臣に報告している。そこには、当用漢字表にあってもかなで書くものとして、「虞れ、恐れ(おそれ)、且つ(かつ)、従って(したがって)、但し(ただし)、外(ほか)、又(また)、因る(よる)」を挙げているが、ここにも形式名詞は出ていない。ただし、翌年1955年刊『国語シリーズ25 法令用語の改正』に、次のようなものは、かな書きにするとしてようやく形式名詞相当の語が登場している(12)。

(12) (ト) 名詞

(例) こと、とき、もの、ところ (ただし、次の用法に示すように、特定のものをさすときには、漢字で書いてよい。)

こと	見ることがある。	事	事を好んで、事の始まり
ところ	好むところである。	所	家を建てる所
とき	公布されたとき	時	年令に達した時
もの	基づくものである。	者	裁判所で指名した者 物 所持する物

その後、教育の分野では、横浜市立西中学校 (1958) 『国語表記の学習指導』において、「文脈を考えてかな書きが妥当であるか、漢字で書いたほうがよいかを使い分ける」ことを求めたり、藤井 (1967) において、「なお漢字を主にする考え方とかなを主にする考え方とがあって、現在は、後者の立場に転向している」として、「訓があっても「事」「見る・来る・行く」などを、形式名詞や補助動詞としては、かなで書く」としたりする事例が見られた。

戦後の国語施策のなかで、形式名詞を仮名で書くように明確に求めたのは、第9期国語審議会 (任期は、1968年6月～1970年6月) からである。第9期では、第8期から続いて、漢字・かなの両部会を設置した。漢字部会では、「当用漢字音訓表」の検討を行い、最後の第74回総会 (1970年5月27日) に、「当用漢字改定音訓表 (案)」 (部会報告) を提出している。前文に含まれる〔音訓の選定〕では、「5 感動詞・助動詞・助詞はかなで書くこととする。なお、次のようないわゆる形式名詞・補助動詞もかなで書く。」として、「見たことがある、そう言ったところで…、書いてみた、山本という人」の例を挙げている。

また、「一般の社会生活において現代の国語を書き表すための漢字使用の目安」である「常用漢字表」 (1981年3月23日国語審議会答申、10月1日内閣告示) では、字体についての解説が主で、仮名表記についての解説はなかった。しかし、2010年11月30日には、「(改訂) 常用漢字表」を内閣告示した。その際、同日発出された内閣訓令「(別紙) 公用文における漢字使用等について」では、「(2) 「常用漢字表」の本表に掲げる音訓によって語を書き表すに当たっては、次の事項に留意する。」として、「キ 次のような語句を、() の中に示した例のように用いるときは、原則として、仮名で書く。」とした。その例には、「こと (許可しないことがある)」を挙げている。これも先の表現を用いれば、「具体的に特定できる対象」がない場合、つまり実質的な意味が希薄な形式名詞ということになる。

当時の教科書を網羅的に確認することはできなかったが、中学2年生用の2015年度検定教科書では、「形式名詞は平仮名で書くのが普通である (東京書籍)」「形式名詞は仮名書きするのが普通だ (教育出版)」「普通、ひらがなで書き表す (光村図書)」とされているという (河野 2021)。1996年検定版では、「形式名詞は、文字で書く場合には、仮名書きするのが慣例となっている (学校図書)」の例も確認した。

このように、戦後の国語施策のなかで、表記のよりどころ・目安を示す場合に、いわゆる形式名詞は仮名書きすることが、徐々に求められていった。

4. BCCWJにおける形式名詞「こと」

本論文のテーマである形式名詞「こと」の書字形の現状を確認する前提として、NINJAL-LWP for BCCWJ (NLB) を用いて、形式名詞「こと」のパターン頻度を押さえておくことにした。NLBは、レキシカルプロファイリングという手法を用いたコーパス検索ツールで、名詞や動詞などの内容語の共起関係や文法的振る舞いを網羅的に表示することができる。NLB ver.1.30は、その対象としてBCCWJのDVD版を使用している。ただし、著作権上の理由から、出版サブコーパスの新聞は含まれていない。BCCWJにおける「こと」の頻度は701,470であり、「こと」のパターン頻度を出現上位のものに絞ってまとめると表1のようである。

次に、BCCWJに含まれるこれら「こと」の書字形を確認すると、平仮名の「こと」665,503例 (94.9%)、漢字の「事」35,194例 (5.0%)、片仮名の「コト」773例 (0.1%) である。分野 (レジスター) による内訳は、表2及び図1のとおりである。

表1. BCCWJにおける「こと」の用法パターン

全頻度701,470		内訳(上位のみ)				
こと+助詞	541,625	ことが	ことを	ことは	ことに	ことも
動詞基本形+こと	304,680	いること	すること	れること	なること	あること
ことを+動詞	116,994	ことをいる	ことをする	ことを言う	ことを考える	ことを知る
ことが…	105,949	ことができる	ことがある	ことがわかる	ことなる	ことがいる
こと+助動詞	97,563	ことだ	ことです	ことらしい	ことじゃ	ことや
ことに+動詞	81,701	ことになる	ことにする	ことにいる	ことに気づく	ことにある
動詞過去+こと	64,093	いたこと	れたこと	したこと	見たこと	聞いたこと
連体詞+こと	42,844	そんなこと	そのこと	このこと	そういうこと	こんなこと
ことは…	40,970	ことはできる	ことはある	ことはいる	ことは分かる	ことはする
ことも…	30,277	こともある	こともできる	こともいる	ことも考える	こともわかる

分野（レジスター）によって総頻度と収録年が異なり、なおかつ漢字表記・カタカナ表記の「コト」が0頻度の分野（レジスター）もあるので、全体頻度を、カイ二乗分布を使った一様性の検定（適合度の検定ともいう）を使って、漢字「事」・ひらがな「こと」・カタカナ「コト」の3つの表記における頻度の違いを統計的に検討した。その結果、カイ二乗値は極めて大きく、頻度の違いは明瞭であった [$\chi^2(2) = 1,197.970.28$, $p < .001$]。ひらがな表記の「こと」が圧倒的に多く、漢字表記の「事」も多少みられるものの、ひらがな表記との差は歴然としている。カタカナ表記の「コト」はほとんど使用されておらず、限定的な意味で使用されるのではないかとと思われる。

BCCWJの収録年は1976年～2009年であり、戦後の国語施策のなかで、「当用漢字改定音訓表」を可決し、形式名詞を仮名で書くことを明確に推奨した1970年から数年後に当たる。可決事項を事務次官会議で申し合わせたり、各都道府県教育委員会等に通知が発せられたりするなど、中央省庁だけではなく地方においても施策が浸透した頃である。そのため、公的文書（法律、国会会議録、教科書、白書等）では、漢字の「事」が0.2%以下で、片仮名の「コト」は1例も出現していない。公的文書は、内閣告示や訓令にかなり正確に従っている。

しかしながら、公的文書であっても、0.2%以下ではあるものの、漢字表記の「事」が存在する。児童・生徒が表記を学ぶための規範であるはずの「教科書」を例にすると、漢字表記の「事」が12例出現している。そこで、教科書では、具体的にどのような場合に、国語施策に反した形式名詞「こと」の漢字表記が行われているのかを確認した。その結果、(11)のように実質的な「出来事」の意味での「事」、(13) (14)のように「形式名詞」相当であるが、古い文学作品や書簡からの引用であった。(13)は、高村光太郎(1883～1956)の詩「火星が出てゐる」から、(14)は、太宰治(1909～1948)の「河盛好蔵宛書簡」(太宰治が、1946年に河盛好蔵に宛てて書いた書簡)からの引用である。(13)の原文は、旧かなづかいである(太宰 1975)。他にも、「約束事」のような複合語も含まれていた。(11)～(13)は、高等学校『倫理』(東京書籍、2002年検定済み)に掲載されている。

表2. BCCWJに含まれる分野（レジスター）ごとの「こと」の3種の書字形

レジスター	書字形			収録年
	こと	事	コト	
出版サブコーパス(書籍)	209,415 98.3%	3,430 1.6%	167 0.1%	2001年～2005年
出版サブコーパス(雑誌)	21,055 99.1%	163 0.8%	29 0.1%	2001年～2005年
図書館サブコーパス(書籍)	215,522 98.5%	3,131 1.4%	79 0.0%	1986年～2005年
特定目的サブコーパス(ベストセラー)	29,775 98.1%	563 1.9%	6 0.0%	1976年～2005年
知恵袋	44,804 71.8%	17,471 28.0%	122 0.2%	2004年～2005年
法律	5,726 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	1976年～2005年
国会会議録	58,394 99.8%	112 0.2%	4 0.0%	1976年～2005年
広報誌	10,376 98.8%	123 1.2%	0 0.0%	2008年
教科書	5,525 99.8%	12 0.2%	0 0.0%	2005年～2007年
韻文	680 98.4%	11 1.6%	0 0.0%	1980年～2005年
白書	22,879 99.9%	12 0.1%	0 0.0%	1976年～2005年
ブログ	41,352 79.7%	10,166 19.6%	366 0.7%	2008年～2009年
合計	665,503 94.9%	35,194 5.0%	773 0.1%	1976年～2009年

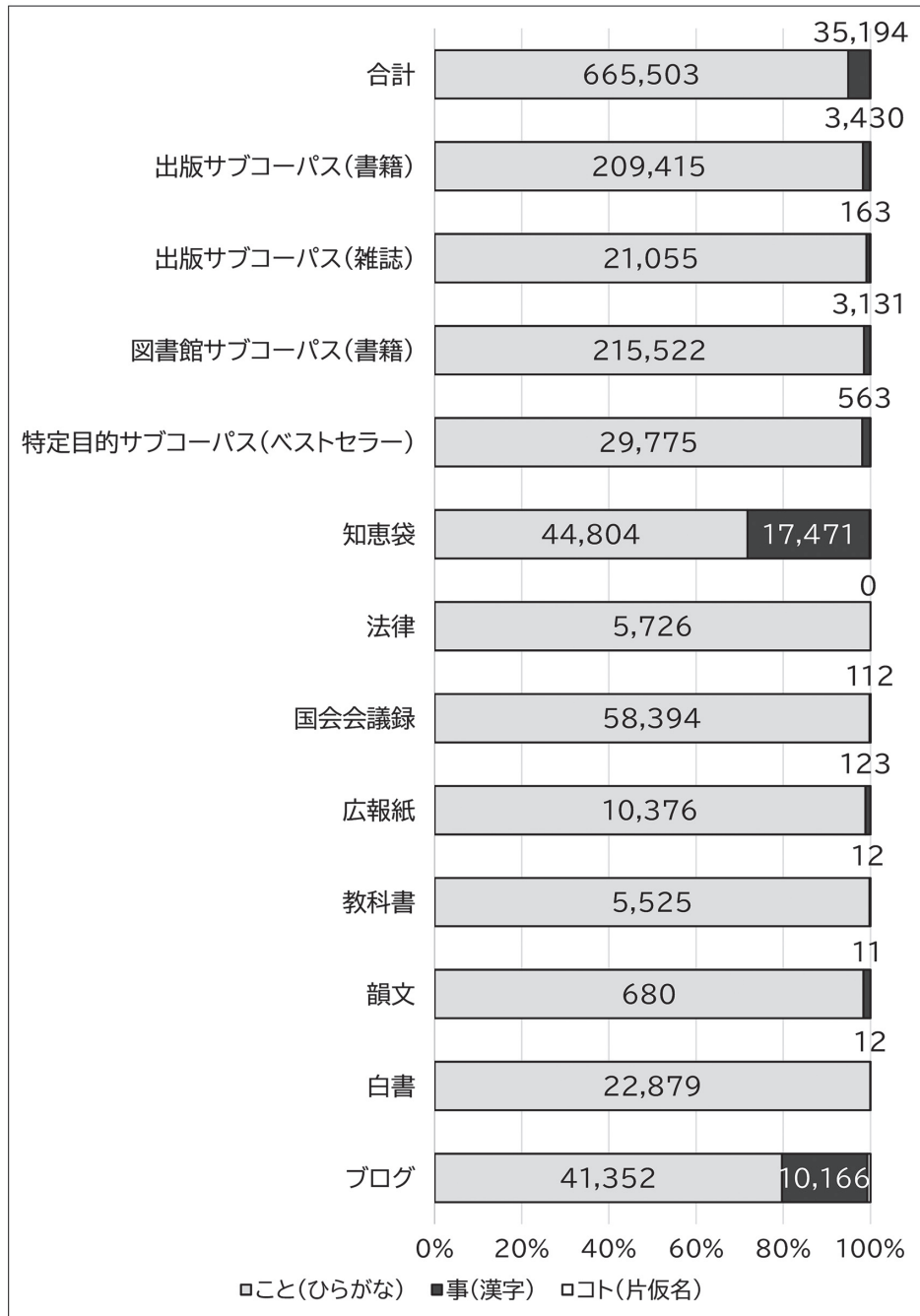


図1. 分野 (レジスター) ごとの「こと」の3種の書字形 (漢字・ひらがな・カタカナ) の割合

- (13) 正しい原因に生きる事、
 そのみが^{きよ}淨い。
 (中略)
 おれは思ふ、
 人間が天然の一片であり得る事を。
 おれは感ずる、
 人間が無に等しい故に大である事を。
 ああ、おれは身ぶるひする、
 無に等しい事のたのもしさよ。 (後略)

- (14) 文化と書いて、それに^{ハニカミ}文化というルビを振る事、大賛成。(中略)人を憂うる、ひとの^{きび}淋しさ^{わび}侘しさ、つらさに敏感な事、これが優しさであり、また人間として一番優れていることじゃないかしら、(後略)

一方、Yahoo!知恵袋^{注3)}(以下、知恵袋)やYahoo!ブログ(以下、ブログ)では、それぞれ28.0%、19.6%もの漢字の「事」による表記がみられる。そして、当該コーパス全体ではほとんど使用されていない片仮名の「コト」は、ブログに集中している(ブログの0.7%)。戦後の国語施策において求められてきた形式名詞のかな書きが、最も定着していないのは、多層的で多様な書き手が混在している知恵袋やブログであることがわかる。

5. 知恵袋とブログにおける形式名詞「こと」

知恵袋やブログは、インターネットの利用者であれば誰でも質問者・回答者や執筆者になることができるWebサービスである。手書きではなく、スマホの画面やキーボードからWeb上に直接入力されるという特徴を持つ。入力される文章は、他者による編集・校正を経っていない。そのため、その表記も多様であることが推察される。他者と知識の受け渡しが行われる知恵袋よりも、個人の意見表明の場であるブログでは、その特徴が強く現れている。

表3・4、図2・3には、知恵袋やブログに含まれる「こと」の書字形を、ジャンルごとに再集計した。ここでは、形態素解析を人手で修正した精密度の高いデータである「コアデータ」を使用した。その結果、知恵袋では、漢字の「事」は知恵袋全体の28.0%(コアデータでは29.9%)と比べて、ジャンルごとの書字形の割合の違いは顕著ではなかった。

他方ブログでは、ジャンルによって大きな違いがあることがわかった。特に、「コンピュータとインターネット」(漢字の「事」は、全体で19.6%、コアデータでは21.8%)では、ひらがな(こと)40.0%と漢字(事)60.0%の割合が逆転していた。第3章で示したように、形式名詞のかな書き推奨が加速するのは、1970年代からである。当時、日本ではインターネットは登場していない。その後50年が経過しても、公的文章以外でのかな書き浸透は不完全であった。

なお、本稿のテーマからは離れるが、ブログのコアデータに含まれるカタカナ「コト」の頻度は、5であった。(15)~(17)に例を挙げる。

- (15) そんなコトってあるらしいのヨ。頭いいコとか・色々考えちゃうコ(家庭と住まい)
- (16) いやーお恥ずかしい!つうコトで、いっぱい観て英語がんばりまーす!(Yahoo!サービス)
- (17) しばらくしたら、うつ病のリスクが増えるコトになってしまいました。(趣味とスポーツ)

奥垣内(2010)は、カタカナ表記について、意味の違いに着目し、「イメージと仮名表記の希薄さがカタカナ表記語独自の意味を動機付けている」とした。標準的な文字選択を離れて、あえてカタカナ表記を選択するのは、表記者の主體的な意味の表明とも考えられる。

表3. BCCWJの知恵袋に含まれる「こと」の書字形（対象は、コアダータのみ）

レジスター (収録年)	ジャンル	書字形		
		こと	事	コト
知恵袋 (2004年～2005年)	エンターテインメントと趣味	28 77.8%	8 22.0%	0 0.0%
	インターネット、PCと家電	32 78.0%	9 22.0%	0 0.0%
	ビジネス、経済とお金	16 80.0%	4 20.0%	0 0.0%
	職業とキャリア	16 66.7%	8 33.3%	0 0.0%
	ニュース、政治、国際情勢	16 66.7%	8 33.3%	0 0.0%
	スポーツ、アウトドア、車	25 80.6%	6 19.4%	0 0.0%
	暮らしと生活ガイド	33 64.7%	18 35.3%	0 0.0%
	健康、美容とファッション	106 65.0%	57 35.0%	0 0.0%
	子育てと学校	32 65.3%	17 34.7%	0 0.0%
	マナー、冠婚葬祭	16 69.6%	7 30.4%	0 0.0%
	教養と学問、サイエンス	41 77.4%	12 22.6%	0 0.0%
	地域、旅行、お出かけ	11 64.7%	6 27.6%	0 0.0%
	Yahoo!JAPAN	42 72.4%	16 27.6%	0 0.0%
	その他	9 69.2%	4 30.8%	0 0.0%
	合計	423 70.1%	180 29.9%	0 0.0%

表4. BCCWJのブログに含まれる「こと」の書字形（対象は、コアダータのみ）

レジスター (収録年)	ジャンル	書字形		
		こと	事	コト
ブログ (2008年～2009年)	ビジネスと経済	19 73.1%	7 26.9%	0 0.0%
	コンピュータとインターネット	4 40.0%	6 60.0%	0 0.0%
	生活と文化	36 83.7%	7 16.3%	0 0.0%
	エンターテインメント	21 80.8%	4 15.4%	1 3.8%
	家庭と住まい	12 63.2%	6 31.6%	1 11.1%
	政治	38 100.0%	0 0.0%	0 0.0%
	健康と医学	7 100.0%	0 0.0%	0 0.0%
	学校と教育	7 77.8%	2 22.2%	0 0.0%
	科学	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
	出会い	0 0.0%	1 100.0%	0 0.0%
	地域	19 90.5%	2 9.5%	0 0.0%
	特集	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
	芸術と人文	19 95.0%	1 5.0%	0 0.0%
	Yahoo!サービス	124 68.1%	56 30.8%	2 1.1%
	趣味とスポーツ	66 90.9%	13 16.3%	1 1.2%
	合計	372 77.2%	105 21.8%	5 1.0%

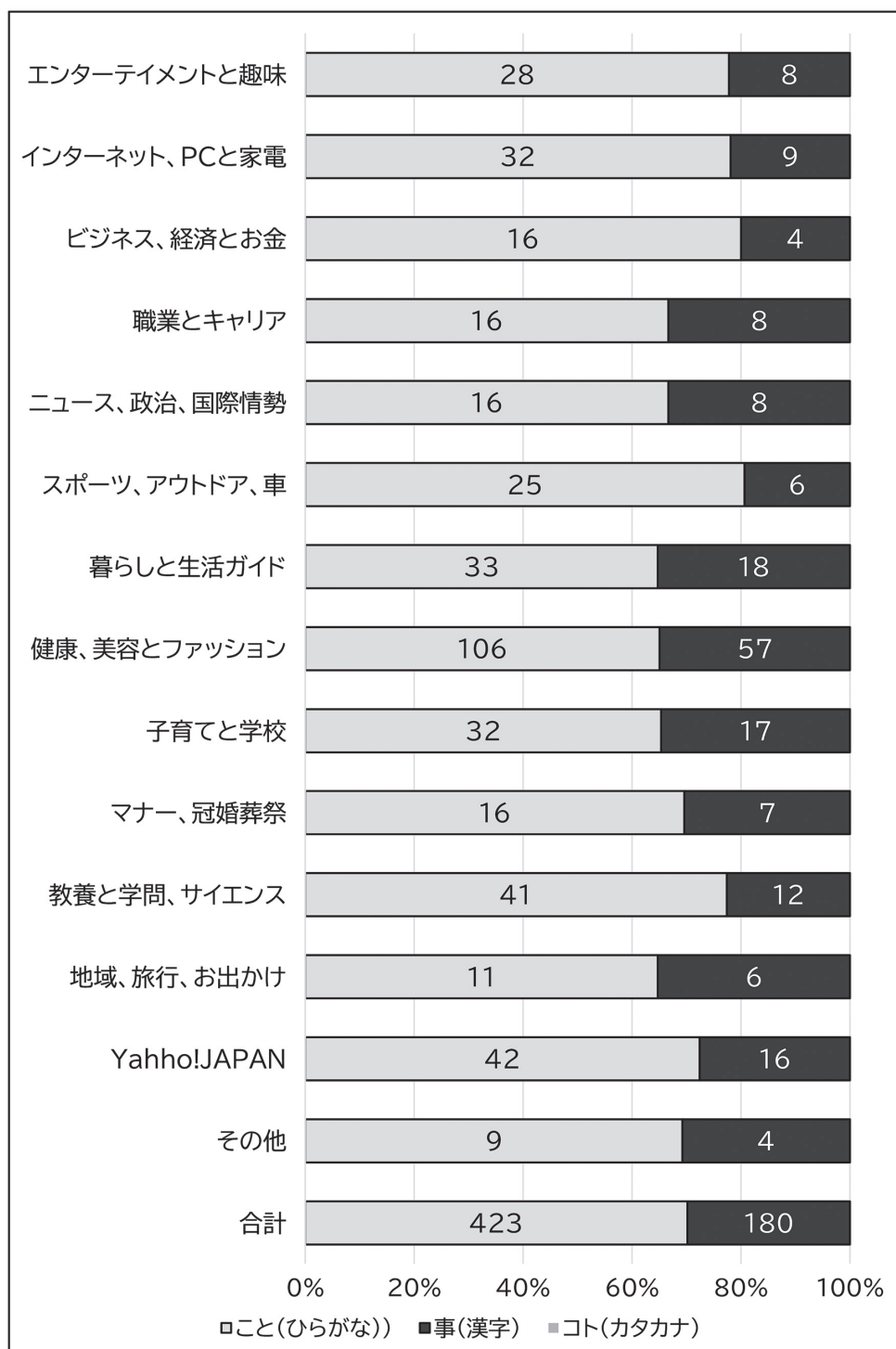


図2. 知恵袋の「こと」の3種の書字形（漢字・ひらがな・カタカナ）の割合
対象はコアデータのみ。

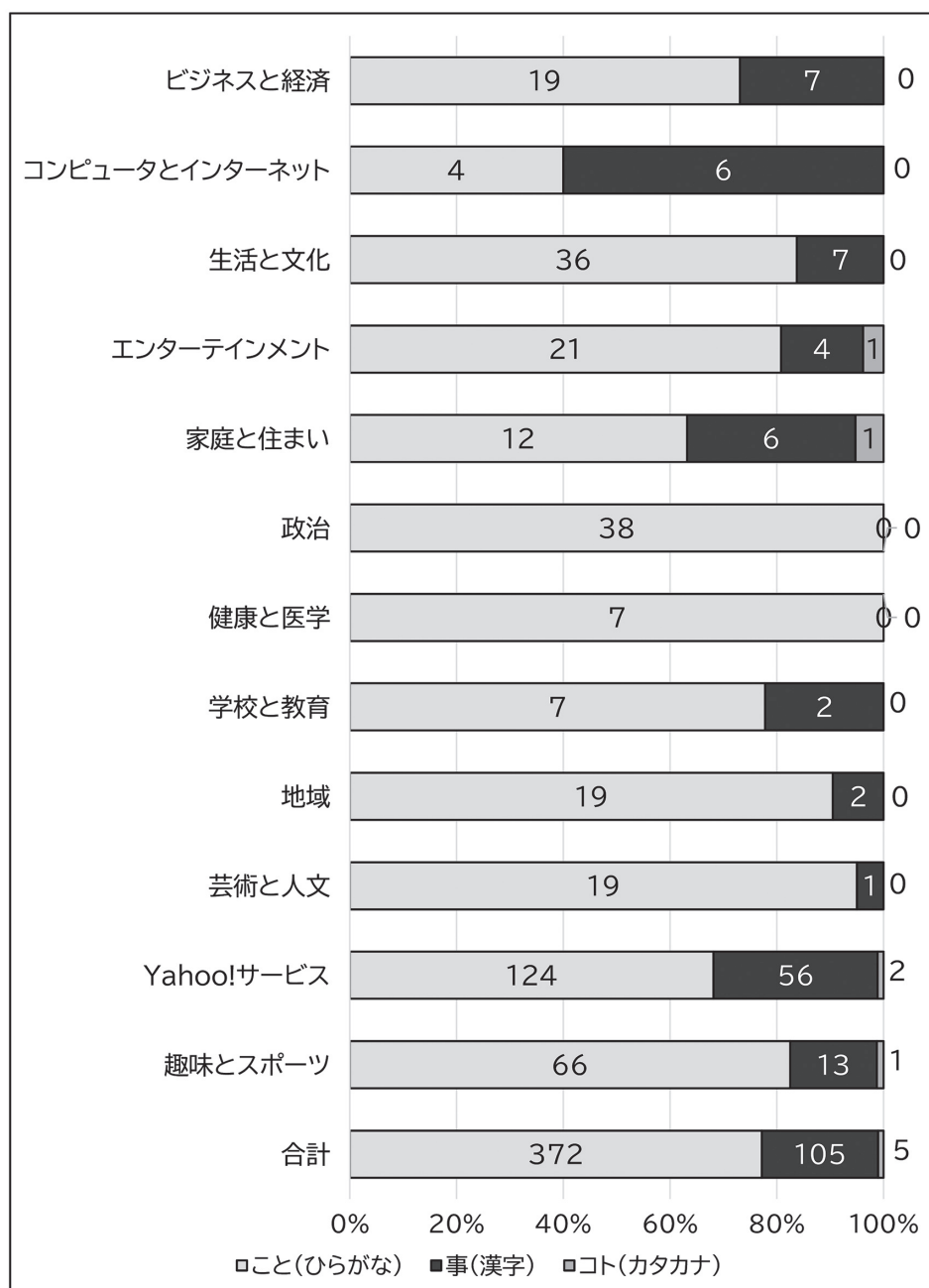


図3. ブログの「こと」の3種の書字形(ひらがな・漢字・カタカナ)の割合
対象はコアデータのみ。頻度の合計が5以下のジャンルは除いた。

6. おわりに

本稿では、日本語を書き表す際、漢字・ひらがな・カタカナの3種の文字のうちからどれを選択すべきかの現状について、実質的な意味が希薄な形式名詞「こと」の表記を例に検討した。BCCWJを用いて、形式名詞の表記に推奨される仮名表記ではなく漢字表記が選択される事例が存在する状況を示した。その結果、形式名詞を漢字表記する割合は、分野(レジスター)によって異なり、知恵袋とブログ(なかでも、コンピュータとインターネットのジャンル)に多いことを示した。

注

- 注1) 例えば選挙ポスターでは、読みが難解な名前の場合に、漢字を避けて平仮名を選択する事例がある(秋本 1998)。
また、入口(2016)は、「漢字・カタカナ・ひらがなをどう用いるかは、単純な文字の選択の問題ではなく、その背景に人間社会の構造が深く関わっている。文字に身分があると言ってよい。つまり、書かれた文章の内容もさることながら、そこで選択された表記そのものに思想があり、社会的背景があるのだ。」と述べている。
- 注2) 投稿者は、当時54歳の女性で、職業は公務員である。国語施策の流れのなかで、かな書きするものとして形式名詞が例示され始めたころに、中学生であったと思われる。
- 注3) Yahoo!知恵袋は、「疑問に思っていることを質問したり、知っている事柄についての質問に回答することで、参加している方がお互いに知恵や知識を教えあい、分かち合えるサービス」である。そのため、インターネットの利用者であれば、誰でも回答者となることができる。

引用文献

- 阿川弘之・野地潤家(1998)『中学校 国語 2』、学校図書
- 秋本治(1998)『こちら葛飾区亀有公園前派出所(ジャンプコミックス)』51「道楽党起つ!!の巻」(電子書籍版)、集英社
- 入口敦志(2016)『ブックレット〈書物をひらく〉2 漢字・カタカナ・ひらがな一表記の思想』、平凡社
- 奥垣内健(2010)「カタカナ表記語の意味についての一考察：身体性とイメージの観点から」『言語科学論集』16、pp.79-92、京都大学大学院人間・環境学研究科言語科学講座
- 河野亜希子(2021)『「書く」ための文法指導に関する研究—形式名詞「こと」の取り扱いの観点から』、風間書房
- 太宰治(1975)『太宰治全集』第11巻、書簡(昭和2年-昭和23年)、筑摩書房
- 玉懸元(2015)「形式名詞とは何か—山田孝雄の『日本文法論』に立ち戻って—」『中央大学文学部紀要』49(2)、pp.168-186、中央大学文学部
- 西尾寅弥(2007)「形式名詞」、飛田良文・遠藤好英・加藤正信・佐藤武義・蜂谷清人・前田富禎編『日本語学研究事典』、明治書院
- 日本国語大辞典第二版編集委員会、小学館国語辞典編集部編(2000-2002)『日本国語大辞典第二版』、小学館
- 橋本修(2018)「形式名詞」、日本語学会編『日本語学大辞典』、東京堂出版
- 藤井信男(1967)『中学校国語科基本的事項の指導』、明治図書出版
- 文化庁(2005)『国語施策百年史』、文化庁
- 毎日新聞(2006.12.8)「青少年読書感想文県コンクール：15編が中央審査へ—県審査／島根」、地方版／島根、p.21
- 毎日新聞(2008.12.3)「青少年読書感想文コンクール：県入賞者／中／三重」、地方版／三重、p.20
- 毎日新聞(2009.9.15)「みんなの広場：テレビ番組の言葉遣いに違和感＝公務員・吉本清子・54」、東京朝刊、家庭面、p.19
- 前田直子(2010)「形式名詞」上野善道監修『日本語研究の12章』、pp.165-177、明治書院
- 松下大三郎(1928)『改撰標準日本文法』、紀元社
- Yahoo!知恵袋 <https://chiebukuro.yahoo.co.jp/> (最終閲覧日2024.1.5)
- 山田孝雄(1908)『日本文法論』、宝文館
- 横浜市立西中学校(1958)『国語表記の学習指導』、明治図書出版
- 読売新聞(1989.3.12)「真理ちゃん事件の告白文 識者の見方 男?女?つかめぬ犯人像」、東京朝刊、社会面、p.31

データベース等

- ・本論文は、国立国語研究所とLago言語研究所が開発したNINJAL-LWP for BCCWJを利用した。<https://nlb.ninjal.ac.jp/> (最終閲覧日2024.1.5)
- ・NLBは、国立国語研究所が公開している『現代日本語書き言葉均衡コーパス』(BCCWJ)を対象としている。<https://clrd.ninjal.ac.jp/bccwj/> (最終閲覧日2024.1.5)

形式名詞「こと」の表記

- ・ BCCWJを検索するために、コーパス検索アプリケーション「中納言」のサービスを利用した。<https://chunagon.ninjal.ac.jp/>（最終閲覧日2024.1.5）
- ・ 「毎日新聞」の記事検索には、毎日新聞社のデータベース「毎索」を利用した。
- ・ 「読売新聞」の記事検索には、読売新聞社のデータベース「ヨミダス歴史館」を利用した。
- ・ 2005年～2007年発行の教科書を閲覧するにあたっては、山口県教育委員会の中央教科書センターを利用した。